

幸せな第一歩

～人に支えられ助けられる有り難さ～



北高木 藤巻 佳江

結婚を機に下諏訪に居住して五年、仕事に夢中の生活で、地域とのつながりもなく過ごしてしまいましたが、子どもが生まれてからは生活が一変しています。

完璧な母親でありたいと願い、子どもへの思い入れが強かった私が、子育て支援センターに通い出したのは、子どもが生後八ヶ月を過ぎた頃でした。この頃は後追いが激しく、一日中ぐずぐず甘えるので大変でしたが、双方の実家は飯山と静岡と遠い上、夫は多忙で休日も家を空けることが多く、私は疲れ果てていました。

職員の方は私と子どもの様子を見て少し話をただけで、後

追いの原因は昼寝のさせ方にあると突き止め、午前中たっぷり遊んでいられるか、眠いサインを見逃していないか、決まった場所で寝ると決めているのではないかなど、指摘してくださいました。

早速試してみるとすんなりと寝つくようになり、生活リズムが整って後追いもなくなり、ご機嫌でよく笑うようになったのです。

相乗効果で家事もテキパキとこなせるようになり、それ以来、支援センター通いは私たち母子の生活の一部に組み込まれています。子どももセンターに慣れ、お友達との交流を楽しんでいます。帰り際には、必ず「また来てね」と笑顔で見送ってくださいるので、行くたびに元気がもら

えます

センターで受講を勧められたNPプログラムは、「完璧な親などいない」との考えのもと、親が親として育つことを支援するというものです。子どもを預けて、日頃の悩みや考えを話し合う中で、母親同士が学び合い、素晴らしい仲間を得ることができました。この時の託児を機にファミリーサポーターを利用するようになり、歯医者にも行けるようになりました。毎回優しいサポーターさんに助けられ、母子ともに育ててもらっています。

出産した町内の産院も、育児の相談にのってもらえる心強い存在です。その産院で同時期に出産した友人とは、お互いの家を行き来しています。子どもたちの成長を共に見守る間柄で、悩んだ時はいつも彼女が大変さに共感し、励ましてくれます。

地域では朝のラジオ体操に一家で参加しています。七夕や夏祭りなどの行事にも顔を出すようになり、散歩に出れば地域の皆さんの温かいまなざしを感じ



津島神社で、ラジオ体操

私が悩んだ時救いになったのは、同じ母親仲間との交流や子育ての専門家のアドバイス、地域の方々の温かさといった「ひと」の言葉やぬくもりでした。一人で頑張っているように思える時は、子育てを大変と思いがちですが、仲間がいる、一人じゃないと思えると楽しいと思えます。子育てを通じて自分の未熟さと向き合うことも多くありますが、人に支えられ助けられる有り難さを感じながら、少しずつ自信がついてきた気がしています。今はまだ助けられるばかりの毎日ですが、この下諏訪町で家族としての幸せな第一歩を踏み出したことに感謝しています。

和気あいあいと

～肩肘張らず心を込めた活動を～



御田町 茅野 悦子

おかみさん会の発足

みたまちおかみさん会は商工会議所の指導の下、平成八年慎重に発足しました。それから十数年、多くの人々の助けにより、今ある事に感謝しております。

当初、三十代から八十代の二十数名の会員が集まり、机上の勉強の連続だった事を思い出します。今は数あるイベント、親会である商業会との売り出し、その間に研修など、忙しくも和気あいあいと活動をしておりま

す。

花田養護学校の生徒さんと
花田養護学校との交流は平成

九年冬季オリンピックの時でした。花田の生徒さんが聖火ランナーの伴走者として御田町を通

る時、その応援の生徒さんに付き添ったのが縁でした。それから年に二～三回学校を訪問し、劇の発表や授業を見せて頂いております。また逆に生徒さんが私達のお店に総合学習で取材に見え、時には鋭い質問を受けて驚かされています。日常、学校の中だけの生活の生徒さんにと

って、商店街を訪問し、一般の人とふれあうことが、少しでもこれからの生活に生かされる事を願い、生徒さんの明るさと頑張りにより元気をもらっています。

若者たちと街づくり

今、私達の活動の中で大きな関わりとして、「しもすわ・あ



みたまちおかみさん会

当初の会合は親子程の年齢差ゆえ、若者達の横文字会話はさっぱり解らず。彼等にしてみれば、おばさん達に戸惑いは大きかったと思います。しかし毎回何か嬉しい気持ちになった事を覚えていきます。回を重ね、目指すものが一つになった時、出来る事から始めようと。若者は労

力、知識などを、私達は接客の中から生まれた信頼による交渉事などで、空き店舗対策が始まりました。

今や織物、木工、布 ガラスなどの工房やカフェ、和食処などの店ができました。若者が若者と呼ばれ、あちこちで若者に会える事が嬉しく、ほとんど母親目線で、お節介支援をしています。肩肘張らず気軽ながら、心を込めてこれからも引き続き活動をしていこうと思っております。

南三陸町へ

東日本大震災の発生に、何か出来る事はないかと。全国の商店街で組織する防災ネットワークを通じて、南三陸町の復興の中心の方と連絡が取れ、現地の要望を聞いて、消毒薬、歯ブラシ、お味噌、殺虫剤などを送りました。店頭での義援金箱に寄せられた多くの方のお気持ちを、支援物資購入に使わせて頂きました。有難うございました。